

平成 30 年 8 月 XX 日時点

武蔵野市第六期長期計画市民会議 報告書（案）

目 次

はじめに	1
市民会議における議論経過について	1
1. 市政全体を俯瞰して重点的に議論された点	2
2. 各分野に関する議論	4
I 健康・福祉	4
II 子ども・教育	7
III 文化・市民生活	11
IV 緑・環境	16
V 都市基盤	19
VI 行・財政	22
3. 長期計画市民会議から策定委員会へ託したいこと	26
4. 参考資料	29

はじめに

長期計画は、市の長期計画条例※に基づき、市政運営の基本理念や実施すべき施策などについて定めた市の最も重要な計画である。武蔵野市では、昭和 46 年（1971 年）に第一期基本構想・長期計画を策定して以来、現在まで定期的に計画の策定と見直しを行い、これらに基づいて計画的な市政運営を推進してきた。今回策定する第六期長期計画は平成 32 年度（2020 年度）を初年度とする計画期間 10 年の計画であり、平成 30 年度（2018 年度）から 2 カ年かけて策定作業が行われる。

策定にあたっては、第一期基本構想・長期計画の策定以来の本市の特長である「武蔵野市方式」とよばれる、市民参加・議員参加・職員参加を継承しつつ、多様で広範な市民参加手法が取り入れられる。幅広い市民の意見を長期計画に反映させていくために、学識経験者等の市民 9 名と副市長 2 名で構成する策定委員会が中心となって総合調整を行いながら計画案を作成するほか、公募による市民会議、無作為抽出した市民によるワークショップ、パブリックコメント、意見交換会等が実施される。

今回、上記のとおり多様な市民参加手法のひとつとして、第六期長期計画市民会議（以下、「市民会議」という。）が設置された。市民会議の設置にあたり、平成 30 年（2018 年）5 月 1 日から 5 月 21 日まで市民委員の募集が行われ、市内在住・在勤・在学の 18 歳以上の市民から 10 名の委員が選出された。

※平成 23 年（2011 年）12 月制定

市民会議における議論経過について

6 月 18 日の第 1 回会議から 7 月 25 日の第 4 回会議まで、全 4 回にわたって、第六期長期計画策定において検討すべき課題や市が目指すべき将来像等について市民感覚で討議した。会議においては、第五期長期計画の各分野（健康・福祉／子ども・教育／文化・市民生活／緑・環境／都市基盤／行・財政）に関するグループ討議を集中的に行うとともに、分野を横断した全体討議も行った。

限られた時間で行われたグループ討議においては、グループ内の合意形成は目的とせず、各分野における「次の世代に向けたビジョン・ありたい姿」「現状と課題」「ビジョン・ありたい姿を実現するためには」という 3 要素について、各委員のさまざまな立場から、多様な意見を出し合った。各グループで出された意見は可視化・分類するとともに、全体でも共有した。なお、市民会議委員のほかに進行役として「市民会議サポーター」が導入され、市民間の討議をより重視した手法が取り入れられた。

本報告書は、全 4 回の会議における活発な意見交換を通じて出された内容をまとめ、今後の策定委員会の議論の参考とするべく、市長に報告するものである。

1. 市政全体を俯瞰して重点的に議論された点

市政全体を俯瞰して、委員によって重点的に議論された点について、以下の3つの項目にまとめた。

(1) 市民によるコミュニティやつながりの促進・市政への参画機会の創出

どの分野の議論においても、市民によるコミュニティづくりやつながりの促進の重要性については多く言及されることとなった。各分野におけるビジョンの例としては、市民協働による環境保全、高齢者の社会参加の効果による健康づくりや介護予防、多様性を包摂した地域ぐるみの子育て、近所の手ながりによる防災への備え、などが挙げられる。

他自治体に先んじた様々な取り組みによってコミュニティ先進都市と言われる武蔵野市であるが、コミュニティ基本構想やコミュニティセンターのあり方などについて、課題が表出しており再検討し発展させるべきという提言もなされた。

また、今回の長期計画策定においても重要視されている点ではあるが、市民による市政への参画機会の創出が重要であるという認識を共有した。そのためには、行政による開かれた市政運営はもちろんのこと、子ども・若者が武蔵野市や地域のことについて知る・考える学びの場、コミュニティセンターなどに限らない多様なチャネルを通じた市民参加、といった機会の創出が必要であろうと考えられる。

人口動態の変化などによって市の財政状況も安泰とは言えず、社会全体の変化のスピードも早く不確実性が高い状況においては、市政全体を通じて、対話の機会を増やし市民と行政が協働して進めていくことが、さらに重要性を増すのではないかと考えられる。

(2) 住み続けられるまち・武蔵野市プライドの醸成

住みたいまちとして需要の高い武蔵野市ではあるが、家賃相場としては特に若年層が住み続けることは困難でもあり、転入出の流動性が高い。大規模なマンションに居住する人の割合も増えており、地域の関係性を構築することも容易ではない。まちに愛着を持って住み続けられる武蔵野市であるためには、住民視点では課題も多いとされた。

一方で、自然・文化・市民感覚など、豊かなまち資源を持つことを効果的に発信したいという考えもあった。さらに武蔵野市プライド・武蔵野シチズンを市民同士の対話により確立し、それを普段市政との関わりの少ない市民とも共有することで地域の関係性を強固にし、さらに住み続けられる魅力的なまちへと導いていくべきではないかと考えられる。

(3) 世代間のバランスのとれた効果的な予算執行

今回の市民会議において通底した意識として「次世代につなげるための長期計画」というものがあつた。

他市に比較すれば良好である武蔵野市の財政とは言え、その状況を維持し続けることは難しいという予測もある。選択と集中による効果的な予算執行も求められるのではないか。

その上で何度か論点となったのが、世代間の財政や事業のバランスについてである。高齢化によって高齢者関連事業の予算配分が大きくなりやすい現状であるが、そうした社会構造だからこそ若年層に重点化することで未来への投資を行うという考え方もあるのではないか、あるいは市民全体の平等性を考えると極端な傾斜は難しいのでは、といった議論があった。いずれにせよ、未来を担う人材の育成、若者を含めたすべての世代が住み続けられるまちづくり、ということには課題があるという認識を共有した。

2. 各分野に関する議論

I 健康・福祉

地域のつながり・社会参加を促進すること、まちぐるみの支え合いを実現することが重要であると議論され、そうした取り組みが健康づくりや介護予防につながるとされた。そのためには、多世代交流の機会や気軽に他者とコミュニケーションしてつながることのできる場を多様につくることが求められる。

また、医療・福祉の充実や連携においては、主に関係機関の連携が必要であるとともに、まず相談できる窓口や相談相手の重要性が挙げられた。

【次の世代に向けたビジョン・ありたい姿】

生涯にわたり安心して活動できる生涯健康都市を目指す
ピンピンころり

人生の最後まで暮らし続けられるまち

武蔵野市の自宅で安心して生活・終活ができる

高齢者も障害者も安心して暮らせるまち

社会的包摂・ともに生きるまちづくり

高齢者はもちろん障害者や生活困窮者にも届く福祉

高齢者が主体の市政を若者が主体の市政に転換

まちぐるみの支え合いができています

相談支援ネットワークの体制が定着した状態

【現状と課題】

■ 少子高齢化

高齢者の増加に伴う医療・介護の支出の増大

地方消滅ではなく東京消滅と言われている

高齢化社会で認知症が確実に増える

障害児もやがて青年・老人になる

ボランティア活動の担い手の高齢化

■ 地域のつながり・社会参加・健康づくりや介護予防

地域のつながりをいかにつくるか

まちぐるみの支え合いは本当にできているのか

相談支援に必要な情報を関係機関や地域で共有する際の個人情報の壁

■医療・福祉の充実や連携

福祉が子ども・障害者・高齢者の分野に分かれているが、誰でも年をとれば障害者になる

医療・福祉の連携

市民社会福祉協議会の認知度向上

在宅で暮らし続けられる医療体制があるか

健康・福祉分野の人材不足

福祉が必要ではないかという人がいた場合、第三者がどう動けるかわからない

「公」の役割とは何か、調整だけになっていないか

■幅広い福祉

貧困世帯の収入が上がらない・子どもへの連鎖

若年層が健康診断を受けているか

若年層の引きこもり

自殺対策の必要性

世代別の予算比率を KPI（重要業績評価指標）として、若者世代への施策の重点化に移行

【ビジョン・ありたい姿を実現するためには】

■地域のつながり・社会参加・健康づくりや介護予防

社会参加の促進

高齢者が生き生きと活躍する場の提供で健康寿命を伸ばす

認知症予防・支援

他世代との交流

当事者同士の支えあい

悩みや健康相談ができるミニコミセン

みんなで楽しく食事ができる場所

楽しくシェア・共有の活動ができるまち

誰もが話をして相談できる場所

聞くこと・話すことができる人を育てる、講座の開設

まちぐるみ活動などの評価基準の作成と評価

地域共生社会実現に向けた地域エリアの再構築

まちぐるみの健康づくり（職場での健康的な食事の提供など）

ピアヘルプ事業の推進（同じような立場の人によるサポート）

まちなかの活動につなぐ（協働）

人材確保と育成

アクティブシニアの活動の環境整理

個人情報を出すべきところは出す・プライバシーを共有する工夫

コミセンに担当職員が出張する

たくさんの小規模な取り組みを分散させる

■医療・福祉の充実や連携

「まるごと」のケア

福祉サービスの再編・ネットワークづくり

地域の医療施設を増やす

行政との連携を深める

相談ネットワークの連携

市民社会福祉協議会と福祉公社の統合

市（健康福祉部）と市民社会福祉協議会の連携・役割分担

家族介護が安心してできる環境づくり

介護者の育成と就業条件の補償

市民成年後見制度の充実

メンタルヘルスを健康診断に加える

支援窓口の問い合わせをわかりやすく

近所コミュニティの限界をふまえた公的支援の充実

超高齢社会に備えた在宅療養支援体制の整備

障害児の成長にあわせた支援のつなぎの難しさ

■幅広い福祉

高齢者だけではなく幅広い福祉を

社会に出ていく子どもたちの支援

子どもたちへの福祉教育

Ⅱ 子ども・教育

次の世代に向けたビジョンとして、子育てしやすいまちづくりを掲げることが強く望まれた一方で、子育てを取り巻く社会・状況の変化による課題も多く挙げられた。これらの変化を正しく把握した上で、途切れ途切れの子育て支援、共働き家庭への支援施策不足、学校教育の現場の多忙さ・困難さ、小中一貫教育のあり方検討、青少年の自立や能力開発に対する支援の不足、といった課題の解決に取り組む必要がある。

また、子どもを地域ぐるみで育てることについても多く議論された。学校が地域や市民活動に開いていくこと、子育てとコミュニティや地域社協の連携、シニア人材の活用など、様々な形で異なるセクションが協働することの重要性が挙げられた。

また、LGBT や社会的弱者など、マイノリティを支援し社会的包摂を高めていくこととその教育の必要性も挙げられた。

【次の世代に向けたビジョン・ありたい姿】

■子育てしやすいまちづくり

未来を担うすべての子どもが生き生きと成長できるまちづくりを目指す

子育てしやすいまちは住みやすいまち

すべての子どもの育ちと学びを保証する

■地域で育てる

地域の宝を地域で育てる

子育ての地域社会全体での見守り支援

■若者世代の人材育成

出生数増加が見込める若者向けの高等教育や職能教育の充実

子ども自身の考える力をつける

【現状と課題】

■子育てしやすいまちづくり

子育て・教育を取り巻く前提条件の変化（共働き家庭が増えて家庭保育が減った）

途切れ途切れの子育て支援：福祉（保育）と教育は別物？子育て支援は乳幼児で終わり？

子どもの安全・安心な成長支援の不足

子育て家庭支援の不足

共働き家庭への対応の不足

家庭保育・自営業など共働きではない家庭への対応（公立幼稚園がない、児童館不足）

すでに働いている世帯ではなく「子どもが預けられるなら働きたい」という層への対応

地域での子育てには社会教育的なコーディネーターが必要

庭のない保育所の子どもたちの屋外の遊び場の不足

緑優先ではなく陽の当たる児童遊園・遊具が必要

子どもの貧困・母子家庭・父子家庭

待機児童優先はやむをえないが保育の質の低下が問題

学童保育とあそべえの機能は違うことを明確にするべき

学童クラブの増員と施設面接の拡大が必要

■学校教育

子ども・家庭・学校・先生をとりまく関係性の変化

子どもの多様化・教室のブラック化

子どもたちへの期待過多

子どもも先生も忙しすぎる

「学校で全部見てほしい」という考えもあるが、家庭でやることで得られる気づきもある

保護者がお客様になっていて学校や教職員がものを言えない・遠慮する

家庭からの要望を聞きすぎている

子どもが夢を持てる教育になっているか？

青少協の方向性をどうしていくか

外国人とのコミュニケーション能力の不足

不登校の子どもに対する対応

学校へ行きたくない子どもへの対応

建物の建て替えと小中一貫を同じように扱っている

■若者世代の人材育成

大学を卒業してもまともな職につけない若者も多い

職能・特に尖ったスキル（デザインなど）の訓練機会が少ない

青少年自ら自立・成長できる場・環境の整備

■地域で育てる

地域の力を必要としながら地域に閉じた学校

開かれた学校づくり協議会のあり方

PTA を PTCA にする C: community

学校・コミセン・地域社協（市内 13 地区で、住民同士の助け合い活動をする住民組織）を重ね合わせる

学校と市民活動の連携（落ち葉のたい肥化、ビオトープ、高齢者福祉、ボランティア等）

「collabono（こらぼの）コミセン親子ひろば（共助による子育てひろば事業）」に関わる人をどう育てていくか

様々な場面ででてくる共助や地域社会ってなに？だれのこと？

【ビジョン・ありたい姿を実現するためには】

■子育てしやすいまちづくり

子育て・教育の多様化に継続的に対応していく

当事者のニーズに即した支援

子育て世代のニーズを把握して重点的に取り組む

■学校教育

武蔵野の自然・文化・人に触れることで豊かな人間性を育む

他世代との交流の機会

私立学校に通う子どもの実態把握とサポート

子育てセーフティネットの充実化・貧困家庭サポート

次世代を担う学校教育の予算化

ICT 時代を先取りしたカリキュラム

学校教育へのシニア世代の活用

教育段階での「市民教育」（どの立場・世代でも常に当事者意識を）

「市民科」で市の将来について考えて、地域の大人たちとも話す

自分の身は自分で守る訓練や実践

コミュニケーションを重視した教育

対話の促進・充実

■多様性の包摂

LGBT など多様性への対応

弱い立場の子どもたちの支援・交流

性についての教育（マイノリティの子どもにも届くように）

多様な子どもたちがともに学び生活する

■若者世代の人材育成

リカレント（学び直し）の促進：育休復職支援、フリーランス支援、シニア再就職支援

目的別人材育成

■地域で育てる

地域の力を引き出す

開かれた学校をもっと開く

地域での共生の枠組みづくり

地域で育てるためのボランティア活用

「collabono（こらぼの）コミセン親子ひろば」の運営の持続

教室や学童に地域の大人が入る

子どもを支援する人を増やす

地域との交流・情報共有・市民参加の授業

多世代交流協会の創設

Ⅲ 文化・市民生活

広いテーマの分野であるため、多岐にわたる論点が出された。その中でも市民参加が活発であることが豊かな社会づくりに向けた基盤となることについて、共通認識がつけられた。行政による一定の支援は必要であるが、市民自らが自立して行動する仕組みづくりが求められた。

また、時代の変化に合わせた新たなコミュニティ構想の必要性、人間関係の希薄化、コミュニティへの参加が少ない、集合住宅に居住する住民が地域社会に参加しづらい、といったコミュニティに関するさまざまな課題が挙げられた。

さらに、先進都市として様々な文化活動を促進するなど武蔵野市プライドを確立・醸成することも重要であるとされた。そのためにまちの特性を生かしたまちづくり、文化施設や拠点間を結ぶ交通の整備、スポーツ振興、企業の先進的な事例の支援、といった取り組みが求められた。

【次の世代に向けたビジョン・ありたい姿】

■活発な市民参加による豊かな社会づくり

地域の市民活動が活発なまち

魅力を持ち続けるまち（市民活動、多様性、多世代）

市民参加・つながり・協働

みんながみんなのことを考える「市民」になる

市民自らが自立して行動する力をつける（防災、まちづくり、ボランティア）

市政参加の仕組みをつくる

■まちづくり・武蔵野市プライド

グローバルとダイバーシティの先進都市を目指す

平和活動に力を入れる

選択と集中（定着したものを通常活動に）

文化の香りがするまち（活動・催し、まちの景観、武蔵野らしさ）

若者が楽しく学び働ける環境の整備

【現状と課題】

■コミュニティ・つながり・市民参加

新たなコミュニティ構想を検討する必要がある

コミュニティ構想の見直しというよりも新たな考え方が必要

人間関係の希薄化

多様化に対応していない

コミュニティへの参加が不活性

小さいコミュニティには参加しても、他のコミュニティとの交流が少ない

集合住宅に住む住民のコミュニティ参加が少ない

コミセンがマンネリ化している

コミュニティ・コミセン・協議会のあり方を考える必要がある

核になるコミュニティが弱い

せっかくコミュニティ関わろうとした人が出鼻をくじかれて参加意欲がそがれる

困りごととも防災も「自分以外の誰かがやってくれる」→自分のためにも人のためにも動かない→動いてくれる人にコミュニティの課題が集中→コミュニティの先細り・意識の低下・人任せ

新参者が入りにくい

若者が集うコミュニティが少ない

マンション住民の高齢化問題

生涯学習・社会教育の見直し

ボランティアのあり方をどう考えるか

■まちづくり・武蔵野市プライド

駅周辺以外のまちの活性化が難しい

吉祥寺らしさが失われつつある

市民文化の醸成ができていない

武蔵野市の生活は快適すぎる

吉祥寺地区・中央地区は閉塞感があるが、境地区は変革ポテンシャルがある

■拠点

文化の拠点の集約ができていない

文化施設があっても活用されていない

■防災

防災は横のつながりが重要だが現在は心もとない

防災は大丈夫なのかという不安がある

【ビジョン・ありたい姿を実現するためには】

■コミュニティ・つながり・市民参加

コミュニティによる防犯の取り組み

コミセンの機能・役割の見直し、指定管理者制度の理解

コミセンを活用して就労やライフプランをテーマに議論する場の提供

対話によって答えを生み出していく仕組みづくり

共通テーマによる市民の対話の促進

経験豊かなシニアファシリテーターが対話の支援を行う

様々なチャネルを通じた参加・関係性の促進

自分自身でコミュニティの輪を広げる

転入時のインフォメーション（市民活動団体やコミセンの利用方法等）とコミュニティへのつなぎ

隣近所が知り合う工夫

地域フォーラムの活性化

誰も排除しない、ちがいを認め合う

誰かがやってくれるのではなくまず自分がやる

自分の属するコミュニティだけではなく他のコミュニティにも興味を持つ

市民と市の情報共有（情報開示だけではダメ）

市民参加には行政の働きかけは一定程度必要

ボランティア活動センターつくって多世代で活用する

ワンミリオンサポート（小規模でもいいから集える場をつくり維持する支援）

武蔵野プレイスを生かす

■まちづくり・武蔵野市プライド

武蔵野市民プライドの確立

緑を残した開発

武蔵野市らしい観光

3エリアの特性をもっと発揮し、特に西エリアの先進化を支援

■若者世代

若者世代の生活実感・実態の調査

若者世代が将来のビジョンを描ける就労機会を増やす

■拠点

ムーバスの路線を工夫してアクセスをよくする

文化施設の充実（公会堂建て替え）

■スポーツ

健康福祉・多世代・スポーツのコラボレーション

スポーツによる社会的包摂

市民全体で盛り上げるスポーツ

障がい者スポーツの振興

■防災

自助・共助と近助

防災は自助・共助だけではなく公助も重要

災害に備えたまちづくりの再点検

昼間いない市民・昼間しかいない市民に対する実行性のある災害対策

■国際交流

境地区で増加している外国人を生かしたまちづくり

国際交流の活性化

■都市農業

都市型産業としての農業の可能性

まちの真ん中に農産物直売所をつくる

クリーンセンターの熱を農業に活用

産業面・環境面で都市農業保全の方向性を明確にし、対策を検討する

■起業・産業

フェアチャレンジ制度（若者の経済的支援）

ポジティブアクションの推進

ワークライフバランス実現のための広域連携・特徴的な取り組み

ベンチャー・フリーランス支援

スタートアップ企業のサポート

働き方改革

地元産業育成

IV 緑・環境

武蔵野市らしい緑と水が豊かなまちづくりを望む声が多い一方、都市開発によって緑が減っていくことへの危機感を抱いている意見が挙げられた。また、新たな施策を検討するのではなく、既存の長期計画や緑の基本計画に沿って各施策が着実に実行されれば問題ないという意見や、そもそもの緑のあり方、公園のあり方について検討する必要性も挙げられた。

将来に向けた視点では、次世代に継ぐ持続可能なまちを形成するため、エネルギーの地産地消やゴミ処理などの環境を整えること、生産緑地を有効に活用すること、緑の保全創出について市民協働や子どもへの教育を推進することの重要性が議論された。

【次の世代に向けたビジョン・ありたい姿】

■長期ビジョン

緑・水を市のシンボルとして、循環システム先端都市（補足説明を追記）を目指す
次世代に継ぐ持続可能社会

■既存計画の推進

緑の基本計画の着実な推進
立案されている長期計画・施策で問題ない

■市民参加・市民協働

市民協働による豊かな緑の保全・創出
クリーンセンターの歴史のような市民参加・市民活動による環境保全

■武蔵野市らしい緑

武蔵野市らしい緑・環境を守る（歴史・規模感など）
緑豊かな住宅地
生産緑地の維持
緑はより多く、ゴミはより少なく

■エネルギー

ひとりのエネルギーからみんなのエネルギーへ
エネルギーの地産地消（地域に必要なエネルギーを地域のエネルギー資源によってまかなうこと）

【現状と課題】

■緑・公園

見た目だけの緑で緑被率を上げていないか？

「緑」というイメージのあいまいさ

緑がどんどん減っている

落ち葉が迷惑と言って木を切ってしまう

人口密度が高い・空き地が必要

生産緑地の対応策をどうするか

そもそもの緑のあり方についての検証

公園に石などをおいて庭園にしてしまう

小学校の学習で玉川上水は出てくるが屋敷森・雑木林の話が出ない

水と緑のネットワークがなくなっている

■ゴミ

自分が地球環境を消費しているという自覚が必要

環境のために譲り、我慢できるか？ゴミ分別や回収頻度など。

マンションのゴミ処理問題

使い捨てで安価なものが出回っている

■市民の参加意欲醸成・環境教育

市民意識の醸成の難しさ

生活公害が増えている

隣近所の人との関係・対話が難しい

■エネルギー

エネルギーの地産地消・太陽光の課題（負の側面も意識する）

【ビジョン・ありたい姿を実現するためには】

■ゴミ

生ゴミのコンポスト化

落ち葉の堆肥化

ゴミ減量の工夫

■緑・公園

そもそもの公園のあり方（公園＝緑ではない）を環境として考える

大規模公園の魅力をさらに高める啓発・活用・ふれあい
市内にある雑木林の維持、生活の中の緑
森と川の保全、管理との共存
若者が体を動かすことができる公園の整備
住宅地に大木があるのが良い、大きな木を大事に
親水公園を増やす

■市民の参加意欲醸成・環境教育

学校での環境教育
経営者の意識改革
環境・ごみの学校の開設（水の学校の市民評価に学んで）
環境ゴミの学校・水の学校
小規模公園や学校緑地、ビオトープなどを情操教育に活用
学校教育に地域住民も参加する
コミュニティ内の関わり・対話の活性化
専門家だけではなく現場の意見を
転入者への啓発
緑コンシェルジェとしてシニア人材を活用
緑のまちづくりへのコミュニティ単位での協力体制

■計画

都市基盤との関係を計画的に
喪失・保全・創出のメリハリある計画
未利用地・空き地の暫定利用
街路樹・遊歩道などの回遊性を生かしたまちづくり
「緑」を目的によって考え方を変える（歴史・公園・教育など）

■エネルギー

空き地や屋根に太陽光発電

V 都市基盤

誇れる・住んでよかった・住み続けたい武蔵野市として、三駅圏の個性を大事にしながら、特色あるまちづくりを望む声が多かった。街が平常時も防災時も安全・安心であるかどうかの危機感が高く、見た目や利便性だけでなくソフト面も含めた計画をしていく必要があるとの認識が多かった。一方、良好な景観を維持するうえで、緑を重視していくことが重要であることも挙げられた。

便利な交通手段である自転車と、歩行者、障害者の誰もが安全に移動できる環境づくりについても考える必要があるとの声も多かった。

市民がどのようにまちづくりに関与できるかの課題も指摘された。

武蔵野市は市外からの人気も高い一方で、家賃が高く、住みたくとも住み続けられない世代もあるという課題も挙げられた。

【次の世代に向けたビジョン・ありたい姿】

■住み続けたいまち・地域の個性

”住みたいまち”より”住んでよかったまち”

住み続けたい武蔵野・誇れる街

武蔵野市は武蔵野市らしく（吉祥寺は吉祥寺らしく）

三駅圏の街の個性を大事にしつつ、持続性やインフラコストを考えたまちづくり

計画的な基盤整備と三駅圏の特性あるまちづくり

地域に適合した魅力あるまちづくり

物理的ネットワークだけでなく、情報ネットワークを含めた都市基盤の整備

景観・安全・安心に配慮した街づくり

■防災・安全

平常時も災害時にも安心して生活できるインフラ

地震対策の強化による安全都市

歩行者を大切にする道づくり

【現状と課題】

■住み続けたいまち・地域の個性

三駅の駅前の風景に個性がない

見た目も重要だがソフト面も考慮したまちづくり

個性を出すまちづくりとそのコストをどうバランスをとっていくか

吉祥寺南口の検討

生産緑地活用をどうするか

■生活・住居・建物

民間施設の老朽化・点検の必要性

マンション風の対策

若者の生活充実支援が不十分・一人住まいが多く結婚しない

若者向けコミュニティ・若者の関心のあるテーマで集える情報網の不足

家賃が高く住み続けられない

■上下水道

下水処理の最終施設がない

武蔵野市は地下水利用の良さも個性では？上水道は都に一元化して良いのか悪いのかを検討する必要がある

■市民の意識

街に求められる役割をいかに共通認識として持つか

都市基盤において市民ができることは何か？（市民同士のコミュニケーション等）

■インフラ

一度つくったものをどう持続させていくか

東西道路が少ない・南北道路が狭い

【ビジョン・ありたい姿を実現するためには】

■住み続けたいまち・地域の個性

利便性だけでまちづくりを考えない

市民・事業者など現場のニーズをもとに公共施設を建設する。

他市も含めた広域連携（公共施設、上下水道、道路）

景観に対する住民の意識や担い手の確保

■道路・交通

数十年前に計画された、計画道路の必要性の見直し

自転車通行のルールを指導・運行のソフトやハードの工夫

見守りなどのソフト面に対するシニア層の活用

スムーズな交通・防災対策

五日市街道の整備・拡張

ムーバスの路線の工夫（市に一つしかない施設へのアクセスなど）

■生活・住居・建物

土地・住居の誘導政策

公会堂の建て替えの検討

市有地の有効活用・PPP の検証

マンションの老朽化問題に管理組合などを巻き込む（マンション住民の高齢化）

若者に対する仕事・就労・住宅・つながりの基盤提供

■上下水道

上下水道の整備・災害時への供給

■市民の意識

都市計画マスタープランの情報共有

まちづくり情報の共有化・市民意識の向上

まちづくりへの若者の意見の反映

市 HP の改善（階層性やスマホ版）

シニア層の活用による情報ネットワークの構築

■防災・安全

震災に対する総合的な対策・事例研究

VI 行・財政

行・財政分野では、主に財政、公共施設のあり方、市政参加（市民参加）、市職員の働き方について多くの意見が出された。

財政に関しては、高齢化の進行などによる今後の財政状況の悪化が懸念されることから、将来の人口や財政の推計に基づき戦略を立て、縦割りではない総合的な対策が重要との認識が共有された。今後の課題として、メリハリのある予算執行、市民に対する透明性・分かりやすさ、市民感覚を踏まえた効率化、第三者評価の活用について言及された。また他市と比べて数が多い財政援助出資団体について、その役割や効率性を見直しが必要との意見が両グループから挙げられた。

公共施設については、機能重視の視点、避難所など防災面の役割の重視、利用実態を踏まえたあり方の見直しが必要といった意見に加え、学校施設の整備は小中一貫教育の議論と区別して進めるべきとの指摘があった。

市民参加については、他の分野でも議論されたが、分野横断的な様々な意見が挙げられた。課題として、市民参加手法のマンネリ化、自発的な参加の少なさ、市民との情報共有の不十分さ、パブコメなどの市民参加の結果が市政にどう反映されているか実態が分からない、と言った点が指摘された。これに対して、市報の有効活用などによる一層の情報公開、子どもが市政を学ぶ機会・教育の充実といった提案があり、さらには学校区とコミュニティ区域のズレの解消も含めたコミュニティのあり方の再検討についても意見があった。

市職員についても言及され、より積極的に現場に出て市民の声に触れ、協働を進めていくことが大切であるとともに、心身ともに健康に働き続けられる仕組みづくりが、現状の課題であり必要な対策であるとされた。

【次の世代に向けたビジョン・ありたい姿】

■戦略・計画

戦略に基づいた重点的な予算執行

長期計画、第五次武蔵野市行財政改革アクションプランの実行

未来志向でメリハリある・効率的かつ効果的な行財政運営を目指す

縦割りではない総合的な都市運営行政

■市民参加

市民誰もが知り、参加できる市政

市民自治の観点に立った行政運営

積極的に市政参加する・お客様にならない市民

■市民生活

住みたい都市トップレベルであり続けるサポート行政

精神的に満足できる生活

若者が生き生きと住み続けられる市政運営

市民生活を守り続ける健全な財政計画

年寄りになっても楽しいまち

■市職員

元気でやる気のある職員と自治を担う市民との協働

【現状と課題】

■戦略・計画

施設のあり方など計画されたものの見直しがされない

行財政というカテゴリーをやめた方がよい

前例主義・予算主義でチャレンジする組織風土をつくれるのか

■施設・サービス

施設に望むのはデザインではなく使いやすさ

避難所としての学校施設の見直し（必要な改善を行っていくべき）

公共施設の年齢層別利用状況が分かりにくい

指定管理者制度のあり方検討

行政サービスを休日にも運営してほしい

■財政・予算

消費税10%、オリンピック後の経済状況。

受益者負担、施設利用料の値上げ検討

急激に進む高齢化による財政悪化への対策

層別支出では高齢者配分が大きい

予算の公表が分かりにくい

基金の減少の対策をどうするか

補助金の対象と運用の見直し

■情報発信

選挙の直前にしか市政に興味を持たない
市のHPの情報更新にばらつきがあり使いにくい
市報を読まない人が多い・どう読んでもらうか
行政が進めた計画について実行段階で批判が出てしまう
市民に情報提供されているが情報共有されていない・難しい

■市民参加

市民参加のマンネリ化、自発的な参加が少ない
新規転入者の多さでコミュニティが崩れる
コミセン自主三原則がゆがんでいる

■市職員

市民と市職員の接点が少ない
職員のメンタルヘルスの問題
若者・女性・子育て世代の声を聞く機会が少ない

【ビジョン・ありたい姿を実現するためには】

■戦略・計画

第三者による評価の活用
人口予測に裏付けされた若者中心のまちづくり施策
未来の可能性を入れた推計・予測を

■施設・サービス

安易な民間活用はやめる（活用する場合は市民がチェックできる仕組みが必要）
学校施設は教育のあり方と分けて議論すべき

■財政・予算

若者世代への予算の重点配分を行う
高齢世代の安心な暮らしを若者世代に示すことも大切
市民感覚を市政に反映させる

■市民参加

コミュニティ構想の見直し
コミュニティのあり方・コミセンの現状を知る

コミュニティ協議会委員の意識の変化

市民セクターを育てるため市と市民で対話していく

市民の市政参加の必要性

学校教育でのシニア人材の活用

子ども会議の実現

このまま市民参加の機会を増やししながら、市政に関わることの大切さを啓発する

小学生向けの庁舎や市議会の見学ツアー

■情報発信

わかりやすい積極的な情報公開／情報共有だけではなく情報をつなぐ機能も必要

民間も利用できる情報ネットワークの構築

■市職員

職員はなるべく現場に出る・市民に接する

職員の人材育成にメンター制度を導入する

職員の健康診断時のメンタルヘルスの取り組み

職員が一定期間勤めたら自分のやりたい部署に異動する

職員がコミセンに出張して対話をする

武蔵野市の市民科での自治に関する教育

3. 長期計画市民会議から策定委員会へ託したいこと

- 第六期長期計画を策定するにあたり、策定委員会のみなさまにお願いしたいことは「市民の声を聞いた上で、計画策定をお願いします」ということです。何かの訴えには必ず理由があり、それを実現させることがよりよい市政につながるという思いから、市民は声をあげています。なるべく、傍聴者アンケート・パブコメ・意見交換会の発言などは事務局の要約を読むのではなく、生の意見をご参照いただき、その上で委員みなさまの学識を活かした策定をしていただけたらと思います。
- 武蔵野市は現在も財政に恵まれ、充実した公共サービスが提供されていますが、暮らし方の変化や地域人材の固定化で、活発だった地域の活動が曲がり角にきていると感じます。
市民どうしのつながりのある充実した市民生活を将来も続けていくには、行政だけではなく様々な立場の人々が課題や目的を共有し、知恵を出し合い役割を分かち合って取り組む意識が大事だと思います。
「住みたいまち武蔵野」ではなく、「住みよいまち武蔵野」「住み続けてよかった武蔵野」へとつながる長期計画を期待します。
- 長期計画策定は、三つのチャンス。①【武蔵野プライド】住民が、市の誇り、引継ぐべきことを、いろんな世代やコミュニティ(共同体)で、わがこととして議論する機会。②【未来ビジョン】30年、一世代、先を見る好機。財源配分を若者と子育て層に傾斜、シニアに活躍場所の提供をセットで考えて行く。③【未来市民参画】子ども(市の未来を考える授業)、若者(高大生の市民会議)、子育て世代も長計を考える場を作る。
- 今期の長期計画で検討していただきたいことは、これからの武蔵野市をどうしていくのかということを考え合うための土台づくりです。そのために私が提案したいことは、1、多様な人のつながりを生み出す工夫、2、対話する(コミュニケーションする)文化の醸成、3、人をつないだりコミュニケーションを促進する役割を担う行政と市民の協働です。それがゆくゆくは市民自治につながると思います。
- 今回の策定は、2025年を含み、2040年に向かいます。誰もが、安心・安全で前向きに生活できることを目的に、効率や目の前に気をとられることなく、武蔵野市民ならではの「豊かな人間性を育てる思い」が込められることを望みます。平和・環境・防災等に加え、コミュニケーションの大切さは、小さい頃からの教育が必須です。各分野の横断的

取り組みとなるよう期待します。各分野の継続・見直し・新規の検討には必ず財政が関わります。財政は支出もカットも大胆に!!

- (1) 世代別施策で考えれば「高齢者優遇施策の段階的縮小」を図り「子育て・若者世代優遇」へとシフトする。この施策は経費節減の他、世代間に広がっている格差是正、不満解消にも寄与する。
 - (2) 第5期に実行した施策の内、進捗管理を強化し定着した施策は「一般的な取組み策」に落とし込み、選択と集中化を徹底する。
 - (3) 第6期に集中的に放出される「生産緑地」は、市の残された重要課題を多面的に解決する可能性を持つので重点施策をして取り込む。
- 今回の市民会議の討議は刺激的で勉強になった。全員が「市民」だったからだろう。しかし一般市民はどうだろう。市民は行政サービスの需要者であり消費者で、自分のニーズに不満が無ければ市政には無関心のことが多い。昨今、国の財政難から多くのことが地域との協働に求められるようになったが、果たして市民は「市民」であるかが問われている。討論テーマの分野分けを見ると、行政の縦割りを強く感じる。横断的な行政が求められているのではないか。市民ニーズは切れ目がなく総合的。
- ①人口や財政の予測は科学的に。
 - ・市レベルで誘導や予測不能な要素を明らかにし、条件等により複数のシナリオ提示を。
- ②市民参加を内容のあるものに。
 - ・課題や解決方法を簡単に纏めてしまうワークショップでなく、そこから始まる議論を大切に。
 - ・市政現場に日常接している関係者（職員、市民等）の意見聴取や対話を。
- ③これまでの長期計画や事務局提案に縛られずに。
 - ・全課題網羅方式、期間10年、各分野別分類等の前提自体の検討も。
- ●地域経済の活性化、社会保障の増大、大規模災害対策
 - ① 新たなコミュニティ構想の検討、市政参加の仕組み、コミセンの在り方
 - ② 「地域共生社会」実現の活動拠点、地域エリアの再構築
 - ③ 市民社協の強化。まちづくり・ボランティア活動の推進
 - ④ 文化、社会教育、生涯学習の一体化、見直し。
 - ⑤ 公共サービスの公平性、弱者への寄り添い
 - ⑥ 縦割り行政から総合行政対応（丸ごと）
 - ⑦ 待機児ゼロ、本当に必要な親子とは
 - ⑧ 武蔵野らしい平和活動の充実

●事務事業・補助金見直し（廃止、縮小、民間委託、職員定数削減）

財政援助出資団体の見直し

- 社人研の2045年予測では、若年層とシニア層の世代人口比率が近隣市区中最悪レベルであり、今すぐ手を打たないと老衰まっしぐらです。加えて社会の閉塞感と将来不安が増大し、街の活気の源となるはずの、若者の痛ましい事件や自殺が社会問題化しています。
「財政と人材に余裕がある武蔵野市こそ、この難題に先陣切って立ち向かおう！」
具体的には、主役をシニアから若者に転換する。即ち、若者への投資を全分野で拡大する事を提唱します。そして、高度技術教育等で若者の所得を増大し、集って出会う心のゆとりを取り戻し、結果的に結婚出生が増えて、税収増でリターンとなる「好循環市政」を一刻も早く実現したい。

4. 参考資料

■検討の経過

	日時及び会場	内容
第1回	6月18日(月) 午後7時～9時 市役所412会議室	1 開会 2 委嘱状交付 3 市長挨拶 4 委員自己紹介 5 事務局紹介 6 議事 (1) 趣旨説明 (2) 会議運営について (3) その他
第2回	7月1日(日) 午前10時～午後5時 市役所412会議室	1 開会 2 議事 (1) 事務局説明 (2) グループ討議 【緑・環境／都市基盤／行・財政】 (3) その他
第3回	7月8日(日) 午前10時～午後5時 市役所111会議室	1 開会 2 議事 (1) 事務局説明 (2) グループ討議 【子ども・教育／文化・市民生活／健康・福祉】 (3) その他
第4回	7月25日(水) 午後7～9時 市役所601会議室	1 開会 2 議事要録の確認 3 議事 (1) 報告書(案)について 4 その他

■武蔵野市第六期長期計画市民会議設置要綱

(設置)

第1条 武蔵野市長期計画条例（平成23年12月武蔵野市条例第28号）第2条第1項の規定による武蔵野市第六期長期計画（以下「長期計画」という。）の策定にあたり、同条例第4条第2項の規定により設置する武蔵野市第六期長期計画策定委員会（以下「策定委員会」という。）の検討に資するため、武蔵野市第六期長期計画市民会議（以下「市民会議」という。）を設置する。

(所管事項)

第2条 市民会議は、長期計画の策定にあたり、次に掲げる事項について検討し、その結果を市長に報告する。

- (1) 長期計画の策定において議論すべき課題に関すること。
- (2) 武蔵野市（以下「市」という。）が目指す将来像に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、市長が必要と認めること。

(組織)

第3条 市民会議は、次の各号のいずれにも該当する者のうち、市民会議の委員の公募に応募したもので、市長が適当と認める者（以下「市民委員」という。）10人以内で組織し、市長が委嘱する。

- (1) 平成30年4月1日現在18歳以上であること。
- (2) 市内に在住し、在勤し、又は在学していること。
- (3) 長期計画の策定及び市民会議の設置の趣旨を理解していること。
- (4) 全4回程度開催する市民会議に出席することができること。
- (5) 武蔵野市議会の議員又は市の職員でないこと。

(策定委員会委員の指名)

第4条 市長は、市民委員のうち2人以内の者を、策定委員会の委員として、市民会議の意見を聴いたうえで指名する。

(市民会議サポーターの参加)

第5条 市長が必要と認めるときは、会議に市民会議サポーター（市民会議の効果的な運営を補助するため、市長が適当と認める者をいう。以下同じ。）を参加させることができる。

(謝礼)

第6条 市民委員及び市民会議サポーターの謝礼は、市民会議の会議への出席又は参加1回につき4,000円とする。

(設置期間)

第7条 市民会議の設置期間は、市民委員の委嘱の日から平成30年9月30日までとする。

(庶務)

第8条 市民会議の庶務は、総合政策部企画調整課が行う。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、市民会議について必要な事項は、市長が別に定める。

付 則

- 1 この要綱は、平成30年5月1日から施行する。
- 2 この要綱は、平成30年9月30日限り、その効力を失う。

■第六期長期計画市民会議 委員名簿

氏名	住所
おおうえ ゆ き こ 大上 由紀子	桜堤
きがわ のりこ 木川 憲子	桜堤
きたはら じょう 北原 譲	吉祥寺北町
くりはら こわし 栗原 毅	境南町
こもち ともこ 小餅 友子	吉祥寺南町
さがら まさる 相良 勝	八幡町
そだ ただひろ 曾田 忠宏	吉祥寺北町
ひらの おさむ 平野 治	桜堤
まつむら かつひと 松村 勝人	中町
わだ たけし 和田 武史	境南町

■市民会議サポーター名簿

氏名	サポート分野
島田 豊文	健康・福祉
二階 のぶ子	健康・福祉
兼田 武志	子ども・教育
市川 順子	子ども・教育／文化・市民生活
林 賢	文化・市民生活
南 賢二	緑・環境
村井 寿夫	緑・環境
塩澤 誠一郎	都市基盤／行・財政
山田 朗	都市基盤
篠原 二三夫	行・財政

■会議資料一覧

第1回

<配布資料>

次第

- 資料1 第六期長期計画市民会議 委員名簿
- 資料2 第六期長期計画市民会議設置要綱
- 資料3 第六期長期計画市民会議傍聴要領（案）
- 資料4 第六期長期計画の策定について
- 資料5 第六期長期計画市民会議について
- 資料6 第六期長期計画市民会議 スケジュール（案）

<参考資料>

- ・武蔵野市第五期長期計画
- ・武蔵野市第五期長期計画・調整計画
- ・平成26年度版 武蔵野市地域生活環境指標
- ・武蔵野市市勢要覧 2017

第2回

<配布資料>

次第

- 資料1 第六期長期計画市民会議 スケジュール（確定）
- 資料2 武蔵野市における人口の現状について

資料3 武蔵野市における財政の現状と見通し

<参考資料>

- ・第六期長期計画市民会議 第1回 傍聴者アンケート(自由記載欄)

第3回

<配布資料>

次第

第4回

<配布資料>

次第

資料1 第六期長期計画市民会議報告書(案)

資料2 委員からの意見について

<参考資料>

- ・第六期長期計画市民会議 第3回 傍聴者アンケート(自由記載欄)

■傍聴について

■会議の様子

